

（2）地震活動

ア. 今回の地震の発生場所の詳細と地震の発生状況

今回の地震の発生場所は、トルコのイズミル県の南岸とギリシャのサモス島間の海域で発生した。

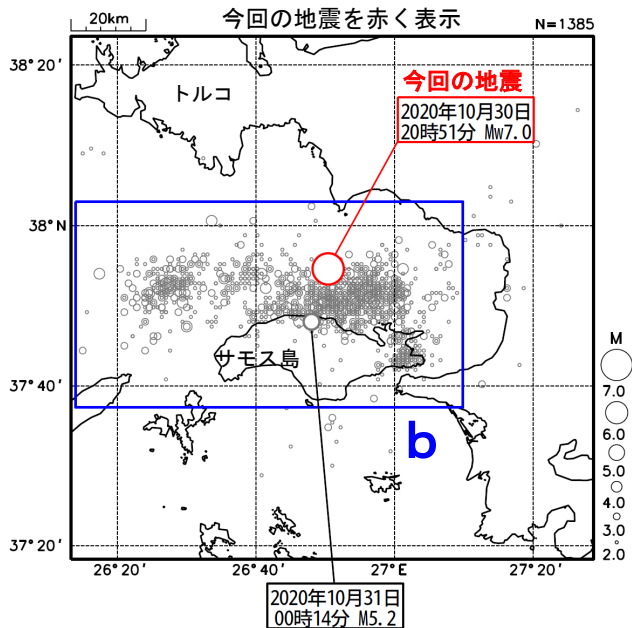
ヨーロッパ・地中海地震学センター（EMSC）の震源データを用いて、今回の地震の発生以後約2週間の地震活動の様子を以下に示す。

領域 a 内の震央分布図（注5）

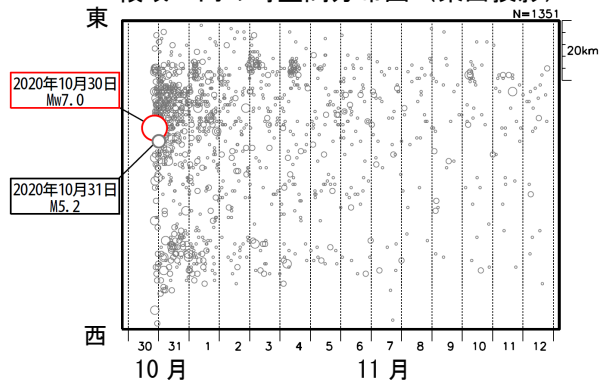
（2020年10月30日～2020年11月12日、

深さ0～50km、 $M \geq 2.0$ ）

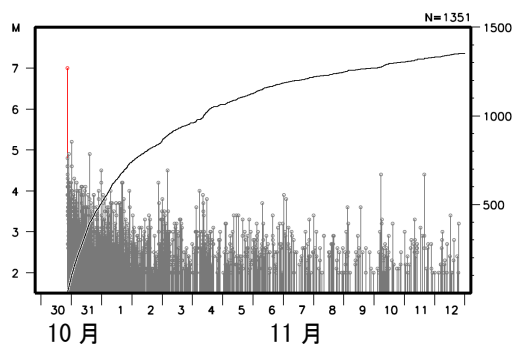
今回の地震を赤く表示



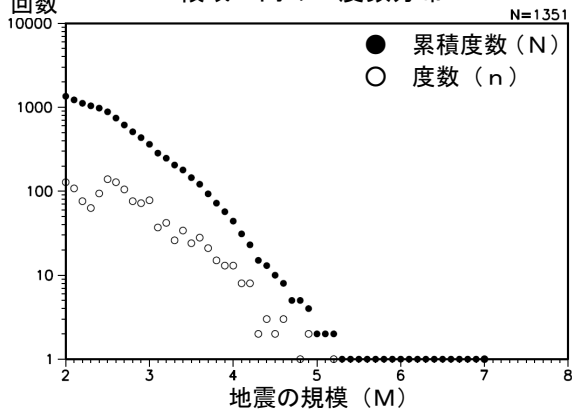
領域 b 内の時空間分布図（東西投影）



領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 b 内の M 度数分布



今回の地震の震央付近（領域 b）では、今回の地震の発生以降、震央分布は東西方向に広がっている。また、今回の地震の震央の西側にもまとまった活動があった。今回の地震の発生以降、徐々に地震の発生回数は少なくなりつつも、活発に推移している。

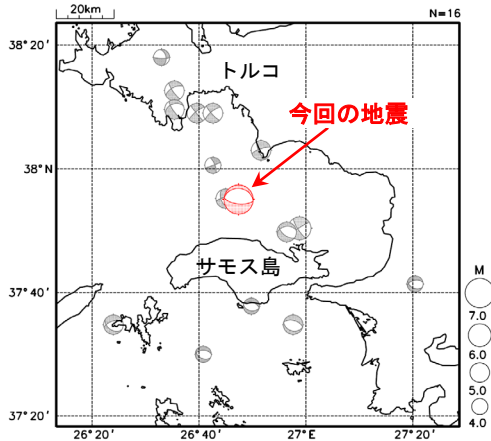
今回の地震の発生後、10月31日00時14分（日本時間）に M5.2 の地震が発生したほか、約2週間の間に M4.0 以上の地震が 40 回以上発生している。

（注5）今回の地震の Mw は気象庁による。それ以外の震源要素はヨーロッパ・地中海地震学センター（EMSC: European-Mediterranean Seismological Centre）による（2020年11月19日現在）。

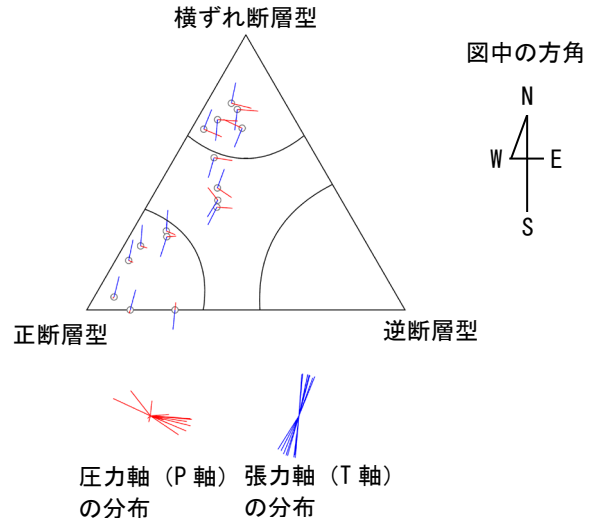
イ. 今回の地震の発震機構（CMT解）

今回の地震の震央周辺の発震機構解の傾向をみると、横ずれ断層型、正断層型の地震で多くを占める。今回の地震は南北方向に張力軸を持つ正断層型（気象庁による）であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

領域 a 内で解析された発震機構解による
震央分布図（注6）
（1979年1月1日～2020年10月31日、
深さ0～50km、M≥4.5）



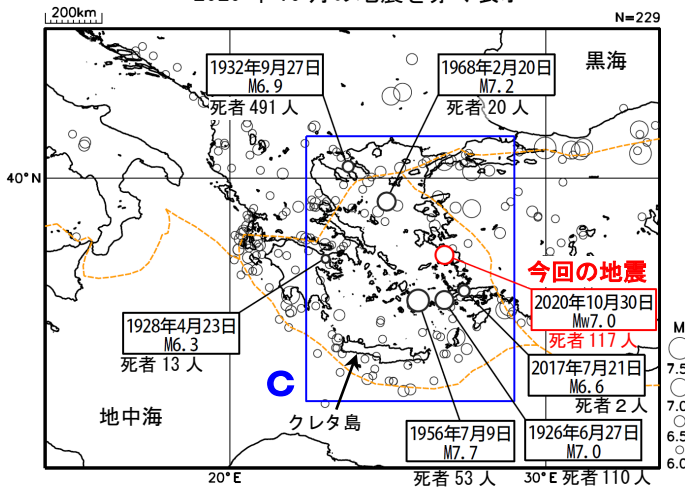
左図の発震機構解の傾向
（三角ダイアグラム）



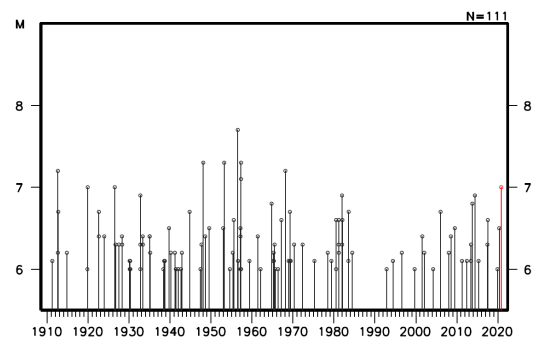
ウ. 過去の地震活動

1910年以降の活動をみると、エーゲ海周辺（領域 b）では、M7.0以上の地震が時々発生している。1956年7月9日に発生した M7.7 の地震では、死者 53 人等の被害が生じ、また津波も発生している。また、最近での死者を伴う被害を生じた地震としては、2017年7月21日に M6.6 の地震が発生し、死者 2 人などの被害が発生している。

震央分布図（注6）
（1910年1月1日～2020年10月31日、
深さ0～100km、M≥6.0）
2020年10月の地震を赤く表示



領域 c 内の M-T 図



（注5） 今回の地震の Mw は気象庁、その他の震源要素は USGS による。それ以外の地震の震源要素は GlobalCMT カタログによる。

（注6） 今回の地震の Mw は気象庁、その他の震源要素は USGS による。それ以外の地震の震源要素について、2016年以前は国際地震センター (ISCGEM)、2017年以降は USGS による。被害は、2017年の地震は国連人道問題調整事務所 (OCHA)、それ以外の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。